科目ナンバリング	U-LAS01 20010 SJ38						
授業科目名 <英訳>	東洋史基礎ゼミナールⅠ Introductory Seminar on Oriental History I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　辻　正博		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

「中国史の名場面を漢文で読む」
　中国史の名場面を原文で読んでみよう！
　この授業では、中国史の名場面を記した漢文史料を「訓読」して、その内容を理解することを目的とします。
　教科書だと1～2行で片付けられている事件でも、史料では何ページもわたって事の次第が詳細に記され、行間から登場人物の息づかいを感じることができます。この機会を利用して、史料解読の醍醐味を少しでも味わってみてほしいと思います。
　今年度の授業では、『資治通鑑』（北宋・司馬光編）のうち、隋唐史のトピックスを選んで読んでいきます。

[到達目標]

伝統中国を知るための根本となる「漢文」の読解について、基礎的な知識を身につける。

[授業計画と内容]

●初回授業時の「ガイダンス」に、授業の進め方について説明しますので、必ず出席すること。
●訓読の技法を身につけ、文章の意味を理解することを第一の目的とします。２週目からは『資治通鑑』の文章に取り組んでいただきます。
●予習―授業―復習の内容は、以下の通りでです。
①予習：授業で読む箇所を事前にお知らせしますので、その部分について、読み下し、不明語句の下調べをしておくこと。
②授業：特に担当を決めず、適宜指名して、少しずつ原文を読み下してもらった後、内容についての質疑応答・解説を行います。
③復習：授業で読み進んだ箇所について各自復習すること。復習をきちんと行うことが漢文訓読上達の近道です。
●小テスト―力だめしとして、適宜、小テストを課します。
●授業中、漢和辞典を引いて漢字・語句の意味を調べてもらいます。必ず「紙の辞書」を持参すること！
●授業回数はフィードバックを含めて全15回とします。

[履修要件]

漢和辞典の引き方がわかっていること。
漢文の「訓読（訓み下し）」について、基本的な知識を備えていること。
※現代中国語と漢文とは別物とお考え下さい。

東洋史基礎ゼミナールⅠ(2)へ続く↓↓↓

東洋史基礎ゼミナールⅠ(2)

[成績評価の方法・観点]

　授業参加に対する評価（きちんと予習できているかを見ます。50%）、小テストの成績（50%）とを総合して、成績を判定します。
【重要】３度の欠席で「不可」となりますので、ご注意下さい。

[教科書]

こちらでテキストを用意し、配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

高等学校で学習した「漢文」の基礎について、きちんと復習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者は、漢和辞典を必ず持参すること。（初回授業時に何点か紹介します。）

[主要授業科目（学部・学科名）]